

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072200365
法人名	社会福祉法人 寿泉会
事業所名	グループホーム 愛らんど
所在地 (電話番号)	福岡県朝倉市菩提寺 183番地 53 (電話) 0946-23-1322

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成19年12月27日

## 【情報提供票より】(19年10月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 8人、	非常勤 0人、
		常勤換算	8人

### (2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋造り	
	3階建ての	3階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

### (4)利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	クリニック コスモ 富田歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園と緑に囲まれた自然の豊富な場所にあるホームは、併設の老人保健施設とクリニックが医療面において協力しており、利用者やその家族が安心できる状況にある。利用者のほとんどは地元の住民で家族も頻りに面会に来ることができ、地域の交流の場となっている。ホームの傍にホームが所有する菜園があり、ボランティアの協力にて野菜作りに取り組んでいる。収穫された野菜を利用者と職員が一緒になり漬物にしたり、調理をする等昔の知恵や特技が発揮できている。このようなことから、利用者も職員も活き活きとした表情で生活している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>課題に対し重点を置き現在取り組んでいる状況である。運営理念の啓蒙を行いボランティアや見学者の受け入れを増やし地域への啓蒙を強化している。また、ホーム内の環境の整備を行い季節感を出す工夫や昔ながらの備品を用い温かみのある環境となっている。職員同士の連絡や申し送り事項に関しては、必ずサインをすることで確認している。職員の研修や成年後見制度等の勉強会は徐々に取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価、外部評価の意義が理解できるよう自己評価の項目を確認してもらっているが、ホーム全体での話し合いはまだしておらず管理者と計画作成者にて意見をまとめている状況である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1度は必ず開催し、ホームと地域の意見交換の場となっている。出席者も多く、市担当者、民生委員、その他ホーム関係者、家族は全員出席している。会議で取り上げられる話題は、利用者の状態や活動等をホームより報告し、地域からの意見や要望を聞き取っている。また、在宅介護に関する知識や介護関係の今後の動向等が多い為、介護教室や相談に関するものを行う予定にしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>面会時や運営推進会議の際に意見等を聞き取り対応している。また、本人をより一層知るためにセンター方式を取り入れ勉強会を開き、統一したケアを目指しサービスへ反映できるように取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ボランティアを多く受け入れ菜園作りや書道を楽しむことができている。近隣の保育園児の来訪もあり利用者は楽しみにしている。日課の毎朝、夕の利用者と職員の散歩時には近隣の顔見知りになっている住民と挨拶を交わす等地域に溶け込んでいる。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	地域に根づいた施設作りを目標に掲げホーム全体で話し合い独自の理念を作りあげている。利用者の個性と能力を活かしたサービスを提供するという意味が込められているが、地域との関わりが明らかではない。		利用者への尊厳と地域密着を目標としてホーム独自の理念を作り上げ管理者、職員の利用者の為に頑張っている様子は良く解るが、地域での役割や関わり方を現す言葉を理念に入れることで更にホームの良さを誰もが理解できるのではないだろうか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	ホームの事業計画会議にて理念について話し合いホームの方向性を明確にしている。ホーム内では朝、夕の申し送り時に管理者から職員に伝達し確認を行っている。職員も取り組み等理解し理念を共有している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には入会していないが、道路愛護等地域の奉仕活動に参加している。また、地域からのボランティアを受け入れ菜園作りやおやつ作りを利用者と一緒に行ったり 保育園児の来訪がある等地域との関わりは充分ある。法人の夏祭りにも地域との交流の場となっている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目を職員全員に目を通してもらい意見を聴き取ったが、項目毎に管理者からの説明がなされていない。自己評価票は職員全員が理解するところまで至っていない為、管理者と計画作成者が話し合いまとめた。		評価の意義を全職員は理解しているが、各項目に関しての理解までには至っていない。日々の業務で利用者が安心して生活できるよう支援する気持ちは伝わっている為、評価の項目に関しての検討会を行い全職員が理解することでサービスの質の向上に繋がるのではないだろうか。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催があり市担当者、民生委員、家族全員、利用者代表1名、管理者、計画作成者、職員1名等が出席し、利用者の状態や活動等をホームより報告し、地域からの意見や要望を聴き取っている。		

グループホーム 愛らんど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営等で不明なことがあった場合は必ず市の担当者の元へ出向き相談しており、ホームと市の連携はとれている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員の代表等は勉強会に出席しているが、全職員は周知していない。必要な家族への説明も行っておらず、パンフレット等の準備もまだ無い状況である。		現在の利用者の状況で必要に迫られた状況では無く、制度に関して広く浅く理解しているが、今後は必要になることも考慮し全員で勉強会等を開き学習する機会を作り全員が周知し理解することを希望する。また、家族に説明しやすいようにパンフレット等を準備してはどうだろうか。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議にほぼ全家族の出席があり、その機会に利用者の状態の報告を行っている。また、面会時にも報告し変化があった場合は即座に電話にて連絡している。金銭管理に関しては金銭出納帳、領収証を照合してもらっているが家族よりサインはもらっていない。		利用者の暮らしぶりの報告は細やかに行っており、家族も安心しているが、口答だけの報告に留まっている。定期的に便りを出されると家族との信頼関係がより深まるように思われる。また、金銭に関しては、家族からのサインを頂くことで多方面で明確になるのではないだろうか。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の入所契約時に意見等聴き取ることで家族の意向の把握に努めている。また、面会時に意見を聴き運営推進会議で話し合いをしている。以前は意見箱を設置していたが、なかなか意見が入らず、現在は口頭にて意見等聴き取っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員に意向調査を行い意向の把握に努めている。離職者がある場合は、引継ぎの為に新任者を早めに採用し10日から1ヶ月の間で利用者の状態やその他のことを把握できるようにしている。また、担当制にしているが他の職員がフォローできる体制になっている。		

グループホーム 愛らんど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>年齢やその他の条件は特に設けていないが、認知症の方への理解がある人であることと地域密着を目指す為に地元の住民を採用するようにしている。採用後は本人の趣味活動を活かしてもらえるように業務内容を考慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>マナー、接遇に関する研修は、法人全体で行い質の向上に取り組んでいる。家族から接遇等に関するアンケートを取る等外部からの声も参考にしている。また、職員に対してはその都度注意をし意識付けを促している。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で職員等の段階に応じての研修を行っている。福岡県の研修にも職員の希望を聴きながら受けられるようにしている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>朝倉市のグループホーム協議会の入会はまだであるが、近隣のグループホームとは多少交流があり、他事業所の行事等の誘いを受けている。しかし、ホームからの交流の機会を作るまでには至っていない。</p>		<p>近隣のグループホームからの行事等の招待は受けているがこちらから出向いて行くことはしていない状況の為、情報の交換等が少なく職員同士の交流もあまりない。今後、グループホーム協議会に入会する予定なのでそれを機会に他のグループホームとの交流を深め情報交換や学習の機会を作られることを希望する。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族と共に見学してもらい本人に納得してもらうようにしている。見学は何回でも受け入れている。また、利用者の情報を収集する為に家族から充分情報を聴き取っている。必要に応じ管理者と職員が本人のところへ出向き馴染めるよう努めている。</p>		

グループホーム 愛らんど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者のできることや特技を見つけ職員と共に行動している。利用者は、昔の事や生活で身につけていることは詳しいので漬物の漬け方やいろいろな話を教わり一緒に作業し出来上がった物を一緒に喜び、感謝の気持ちを伝えている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの情報シートを独自に作り、それに家族から書き入れてもらい本人の全体像を描き、シートを元にホームでカンファレンスを行い本人の希望や意向を確認する等活用している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族を交えた担当者会議を開き十分に話し合いを行っている。計画作成後は、申し送り等で全職員に伝達している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回必ずモニタリングを行い計画の見直しをしている。家族が面会に来たときに見直した計画の説明を行い、本人の状態の変化があった時にも家族と話し合い計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期入所や共用型通所介護を受け入れ、地元住民からの要望に応えている。本人の要望のある受診やその他の際は職員が同行し要望に応えている。また、ホームが所有するサテライトがあり、そこに利用者と共に移動して一緒に過ごし気分転換等を図っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を変えることなく受診の際は職員が同行し個々に対応し状態を確認している。また、協力医が1階にある為、本人と家族の希望がある場合は協力医に変えることもあり状態の変化への対処がスムーズにできている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、ホームで看られる状態まで看るという方針で、その場合は協力医が毎日往診し、看護師もすぐに訪問できるようにしている。最終的には、家族の希望や他の利用者への影響を考慮し入院となることが多いが、職員全員が終末期のあり方に対する方針は共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は外から見えない書庫に保管し、ホーム内に掲示している利用者の写真等は本人、家族の了解を得ている。また、職員へ対しては言葉使い等人権や人格の尊厳に関する研修を行っている。しかし、利用者全員の名前が記された表が貼られたり、予定表に利用者の受診先までがわかるように書かれている状況である。		個人記録の保管や写真の掲示に関しては配慮されているが、ホワイトボードに個人の受診先が書かれてあったり、全利用者の名前が記された表が見える場所に掲示されている。また、利用者への対応で他の利用者への配慮がなされていない場面がある。管理者や職員共に努力、工夫しサービスを提供している様子は窺えるが日常生活での言葉かけや掲示物を再度確認しプライバシー確保の取り組みを期待する。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活のリズムを崩すことなく個々の過ごし方を尊重し支援している。健康体操や生活リハビリ等身体を動かしてADL保持の取り組みをしているが、強制せずその日の状態や気分で利用者は参加している。		

グループホーム 愛らんど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で収穫された野菜で利用者と職員が相談して1品作ったり盛り付けや配膳等利用者のできることを職員が見守りながら一緒に食事の準備を行っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望の時間帯でいつでも入浴できるように支援している。希望があれば夜間の入浴も可能としている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の性格や生活歴、趣味等を把握しクラブ活動にて楽しみ事への取り組みを行っている。特に季節ごとに行える野菜の収穫は楽しみにしている。また、裁縫したり共用部分の掃除等生活の中の役割がある。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩は日課となっており菜園の様子を見に行ったり併設の老人保健施設の入所者のところへ自由に行けるようにしている。また、1週間に1～2度は外食や買い物を楽しむ機会を作り利用者の希望に応えている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターからすぐに玄関となっているが、エレベーターの使用は自由にしており、殆どの利用者はエレベーターを使うことはないが老人保健施設への出入り口から行き来することが多い。その出入り口も自由に出入りできるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練計画書を作成し、毎月避難訓練を実施している。消防署とも連携し、火災発生場所によって避難場所を設定し、それらを確認してもらっている。		

グループホーム 愛らんど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者へ嗜好調査を実施し法人の栄養士が栄養バランスを考えた献立を作成している。水分摂取は食事以外でも、10時、15時、20時と定期的に補給しその他本人の希望の時間に摂取できるよう援助している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感のある草花が飾られ、寸時腰を掛けられるようベンチが置いてある。ホームの奥には畳みのスペース部分があり和風の飾りつけがされ気持ちが和む雰囲気作りをしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、本人の好みであるよう暖簾が掛けてあったり、以前より使い慣れた椅子や小物が置かれている。ベランダにはプランター花壇があり利用者が自由に花を育てられるよう工夫がなされている。		